

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
470003	X-13/31-B-2-470003			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
学外実習	石川 洋	2	インター ンシッ プ・学外 実習	【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	選択	3年
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	選択	3年
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	選択	3年
				授業目的			
				学外実習は、大学と企業等とが事前に協議し、大学から派遣された学生が、ある一定期間、企業等において、就業体験を行うものである。 この科目では、学生が大学で学んでいることがながら、実社会でどのように役立つかを、企業等に入って体験し、そこで得た知見や経験をもとに、専攻分野での知識向上、学習意欲の向上を図ることを目的としている。 併せて、学生が就職を含め、将来の進路を考える上で貴重な経験と情報を得ることができる。 こうしたことから、学ぶことによって「健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決に当たることができる」人物像を目指す。			
				各回の授業内容			
				成績評価方法			
				実習先からの評価票、実習レポート、担当教員との面談、によって総合的に評価する。 教科書・参考書			
				受講に当たっての留意事項			
				・実習先担当教員との面接は必須である。 ・学外実習による就業体験は、アルバイトではないので、実習先が提供する研修・就業に参加するという目的意識をしっかりともって臨むこと。 ・実習先における態度、成果は、本人はもとより、本学に対する評価につながる場合がある。そのため、学業成績、日常の規律遵守に著しく問題のある学生に対しては実習を許可されない。参加する学生は、本学から派遣されていることを自覚して就業に臨むこと。 ・各企業の希望者が実習先の受け入れ人数を越えた時は、担当教員が選考する（実習できない場合がある）。			
実務経験のある教員による授業科目有無				実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施		
○	民間企業での業務経験に基づき、学外実習先選定のアドバイスを行う。			学習到達目標		×	
				・大学で学んでいることがながら実社会でどのように役立つかを、企業等の職場に入って実体験すること。 ・経営学科の学生は、特に、経営学の幅広い知識や分析力を生かし、実社会でどのように活用できるかを理解すること。 ・情報システム学科の学生は、特に、情報システムの構築方法や企業における情報活用などの実態を理解すること。			
				JABEE			

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習